

【編集後記】

高齢化社会とスポーツ、マスターズにける夢

本年10月27日から29日、和歌山市紀三井寺公園陸上競技場にて、「国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会～集え紀州路、世界から」が開催され、日本国内のみならず世界20カ国から2,260余名のアスリートが参加した。また、大会前日の記念シンポジウムには、往年の名選手達——メキシコ五輪銀メダリストの君原健二氏、アジアの鉄人、室伏重信氏、ロス五輪マラソン代表で、最近ではNHK「ひよっこ」のナレーターをつとめた増田明美氏が来和、「生涯スポーツの果たす役割」をテーマに、熱いトークを展開した。

マスターズ陸上競技は、中高年者の世界的なスポーツ組織で、今から85年前、1932年に英国で始まり、欧米に広がった。現在の出場資格は、男女共35歳以上であれば、競技成績は関係ない。様々な競技種目があるが、各種目共、5歳刻みで年齢別に区切られ（この妙味は、ある年の試合で敗れた相手でも、同年齢でなければ、翌年以降、組が異なることもあり、勝つチャンスがあること）、5年毎にそのクラスの最若手となるので、上位入賞が期待できたり、年をとればとるほど、ライバルも少なく、記録も更新される。90歳を超える選手も多く活躍し、ここでは、「60、70歳は凍垂れ小僧」とのこと。「元気で長生き」が生きがいとなり、仲間達との交流は、さらに活力を生む。

ところで、わが国におけるマスターズ陸上発祥の地は、和歌山である。今から40年程前のこと、当時、中学教員で、元国体選手でもあった鴻池清司氏（現 日本マスターズ陸上競技連合会長）は、自ら先頭に立って走り、陸上競技部を指導、西和中学在任中は、県大会で7連勝を達成、15校参加の和歌山市大会では、優勝や上位を独占し、審判員をして「西和中学の運動会」と言わせるほどの黄金時代を築いた。また、和歌山市陸協の創設や県実業団の結成等にも奔走した。

ある時、「月刊 陸上競技」誌掲載の豊岡示朗・大阪体育大学教授の記事を見た鴻池氏は、「年齢別の世界記録」というものがあることを知った。中学で生徒と一緒に走り、専門の800m走の記録をとると、若い頃のベストタイムと殆ど変わらない。早速、豊岡氏に教えを乞い、「マスターズの第1回世界大会が、前年の1975年にカナダのトロントで開催され、第2回大会が、翌1977年にスウェーデンのイエーテボリで開かれる」ことを聞いた。さらに驚くことに、第1回大会での年齢別の優勝タイムを、鴻池氏は上回っていたのである。

彼は矢も楯もたまず、学校共済から低金利の融資があることを知り、どうにか「外国遠征」のための費用80万円を工面した。1ドル270円の時代である。県内からは、遠北明彦氏（当時、県土木部次長・100m走に出場）と共に華々しい歓送を受け、和歌山駅を後にした。1977年8月5日、成田空港から何度も乗り継ぎ、翌6日の夕方、スウェーデン第2の都市、イエーテボリ（港湾・工業都市・名車ボルボの本拠地でもある）に到着した。33時間の長旅で、食事を終え、宿舎の大学寮に落ち着いたのは深夜。大会は翌朝9時開会で、鴻池氏は、初日9時からの走り幅跳びと午後の800m予選にエントリーしていたが、初めての雰囲気や酔い、ファウルや転倒という不運も重なった。時間と資金の余裕がもう少しあれば、コンディションも調整できたかも…と悔やんだという。

しかし、この時、「陸上の神様」織田幹雄氏（1928年のアムステルダム五輪・三段跳びで日本初の金メダル・その前回パリ大会では6位）が競技場のスタンドで観戦していた。鴻池氏のわずかにファウルとなった大跳躍を「すばらしい跳躍だった」と声を掛けてくれた。日本では、織田氏と言葉を交わすことなど想像もできないことであった。そして、この異国での出会いが、3年後の織田氏の「快諾」につながった。

イエーテボリ大会には、40数カ国、3,700人の選手が集い、真剣に競技に取り組んだ。帰途、日本からの参加者達は何とか日本でもこのような中高年者の会を結成しようと語り合ったという。翌1978年1月、鴻池、遠北氏らの強い熱意により、同志14名でわが国初のマスターズ陸上団体の組織「和歌山マスターズ」が誕生した。徐々に全国に広がり、加盟団体も増え、全国組織をという声が高まり、1980年4月、織田幹雄氏を会長に迎え、「日本マスターズ陸上競技連合」が創立された。名誉副会長に南部忠平氏、副会長に西田修平氏ら、陸上のレジェンドが就任した。

20年近く前、私は、鴻池氏のマスターズにかけた半生を文にまとめた。お会いした折、「これからの夢は…？」との私の問いに、彼は少し遠くを眺めながら、「…自然に恵まれ、閑空からも近い和歌山で、世界大会をやりたいなあ。陸上だけでなく、テニスも水泳も、オリンピックみたいにすべてのスポーツの…。健康で楽しく年をとりたい。高齢化が進む今、生涯スポーツの果たす役割は大きい…」と語った。“So, Dreams come true!”（谷 奈々）